

CADCity Ver.11.00 機能アップマニュアル

1-1

対応OS

本バージョンの対応OS一覧を以下にまとめます。

OS名称	動作保証	備考
Windows 3.1	×	サポート対象外OS
Windows 95	×	サポート対象外OS
Windows 98	×	サポート対象外OS
Windows Me	×	サポート対象外OS
Windows NT 4.0	×	サポート対象外OS
Windows 2000	○	Professional 日本語版
Windows XP 32	○	Professional 日本語版
Windows XP 64	×	未対応 使用できません
Windows Vista 32	○	Business 日本語版
Windows Vista 64	×	未対応 使用できません

Windows VISTA は、本システム Ver. 11.0 より対応となりました。

IMG プリンタによる出図からの TIFF/PDF 出力、および外部データ貼り付けオプションは、Ver. 11.0 初期出荷時には未対応です。順次対応していきます。

Windows2003 サーバーは、本システムのネットワークライセンスサーバーとしての利用は可能ですが、CAD クライアントとしてインストールする場合は、サポート対象外 OS となります。

1-2

フローティングライセンス

Ver.7 より、バージョンアップの際、プロテクタを変更せずに、フローティングライセンスをインストールできるようになりました。

Ver.6 以下は、バージョンアップの際はプロテクタの交換が必要になります。

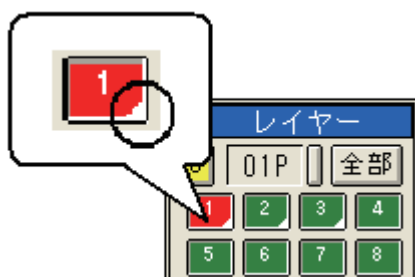
1 - 3

レイヤー

レイヤーに機能を追加しました。

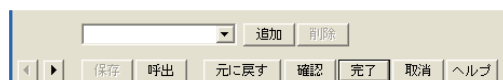
【右パネル】

右パネルのレイヤーパネルで、要素があるレイヤーには、下図のようにマークが付くようになりました。



【保存と呼び出し】

登録したレイヤーパターンの保存と呼び出しが可能になりました。



2-1

ファイルを開く

ファイルを開くコマンドに機能を追加しました。

ファイルを開くコマンドに以下の機能を追加しました。

[ファイル / 開く]

1. ある特定の条件で（Excel2002にて、ハイパーリンクでCADCity図面を埋め込み、Excel2002でリンク先の編集を行ったときなど）CADCityのコマンドラインに、フォルダの区切り文字が「/」のファイルパスが送られる場合があります。Ver. 11.0より、「/」のファイルパスに対応し、オープンできるようになりました。
2. 外部貼付オプションのライセンスが無い環境でも「*.HDE」のファイル形式が呼出可能になりました。

2-2

シーケンス連続呼出

外部貼付オプションのライセンスが無い環境でも「*.HDE」のファイル形式が呼出可能になりました。

[ファイル / シーケンス連続呼出]

2-3

保存

軸傾中に、保存（図面の上書き登録 / 新規名変保存）や出力（出図 / 外部ファイル）ができるようになりました。

※但し、保存の際は軸傾が解除された状態で保存されます。

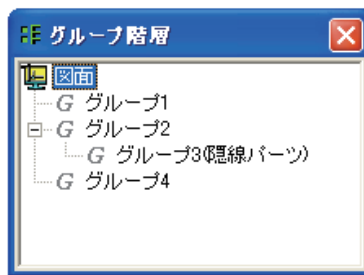
2-4

部品配置

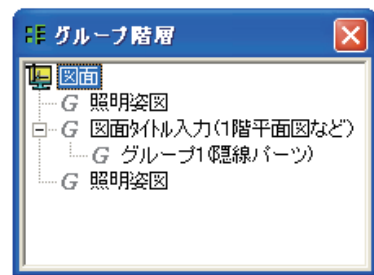
グループ名に自動的にタイトルを付加するようにしました。

[7. 通常部品配置]、[0. グループ] がオンの状態、または [8. 埋込部品] で部品配置を行った場合、グループ名に自動的にタイトルを付加するようにしました。

[Ver. 10.5]



[Ver. 11.0]



2-5

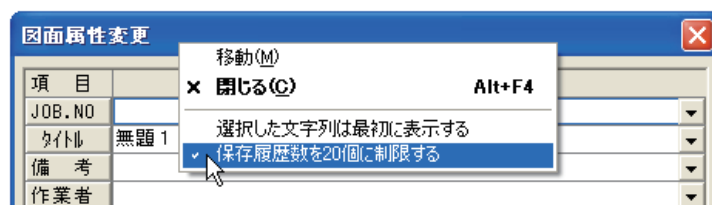
図面属性変更 / バインダー属性変更

入力テキスト履歴の保存数を 20 までに制限できるようにしました。

この機能をオフにすると履歴を無制限に保存し、履歴の表示が遅くなる場合があります。

指定方法は、タイトルバーを右クリックで、下図のポップアップメニューを表示させ、「保存履歴数を 20 個に制限する」にチェックを付けます。

[ファイル / 図面属性変更]、[ファイル / バインダー属性変更]



2-6

出図

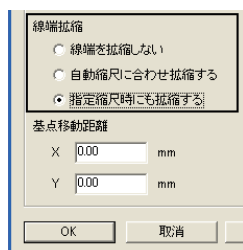
出図コマンドの機能を追加しました。

出図コマンドに以下の機能を追加しました。

[ファイル / 出図]

1. 線端の指定拡縮

出図コマンドの [環境設定 / 拡張設定] で線端を拡張するとき、指定縮尺時にも対応できるようになりました。

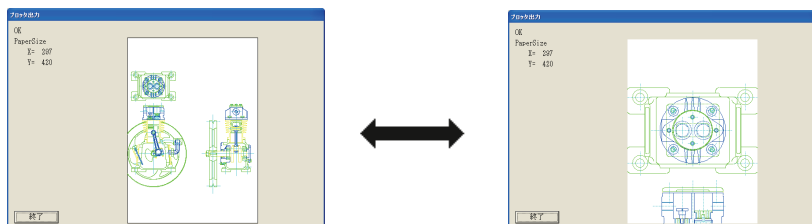


2. 出図プレビュー拡大

出図プレビューに拡大機能が追加されました。

[環境設定 / 拡張設定] で、「ズーム付きプレビュー」のチェックをオンにします。

ズーム付きプレビュー



3. 出図範囲のラバー表示

原点指定時、出図範囲を示すラバーが表示できるようになりました。

例えば、A 0 から A 4 の範囲を印刷したい場合などには、出図範囲が A 4 サイズのラバーで囲まれます。

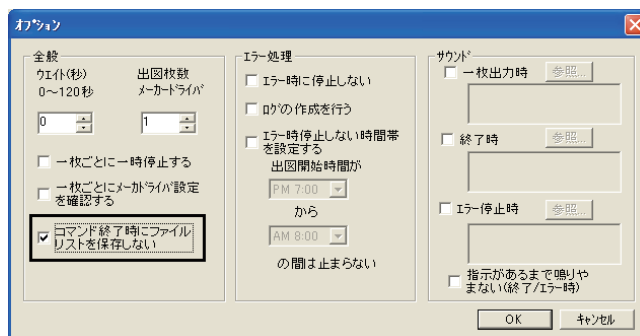
2-7

連続出力

コマンド終了時にファイルリストを保存せずに終了できるようになりました。

コマンド終了時にファイルリストを保存せずに終了できるようになりました。ファイル数が多く、コマンド起動に時間がかかる場合に有効です。プロッタ連続出力ダイアログにあるオプション設定から「コマンド終了時にファイルリストを保存しない」を選択し、チェックをオンにすることで設定が有効になります。

[ファイル / 連続出力]



2 - 8

外部一括入出力

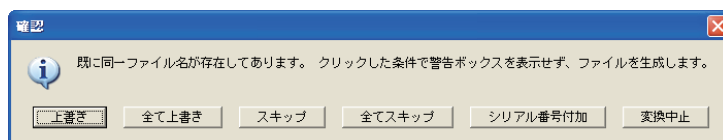
外部一括入出力に機能を追加しました。

外部一括入出力に以下の機能を追加しました。

[ファイル / 外部入力 / 一括入力]、[ファイル / 外部出力 / 一括出力]

1. 上書き確認ダイアログ

変換時に既に同名のファイルがあった場合、上書き確認のダイアログが表示されるようになりました。



2. 変換種別の保持

変換する際に指定した「変換先種別」と「変換元種別」の設定がコマンド終了時に保持され、次回起動時に呼び出されるようになりました。再起動の度に設定を変更する必要がなくなります。

3. 一括変換

一括変換できる形式に HDD と HDE が追加されました。

2 - 9

DXF/DWG 入出力

AutoCAD2007 に対応しました。(お試しコマンド)

[ヘルプ / お試しコマンド / AutoCAD 対応版]

2-10

MCAD 入力

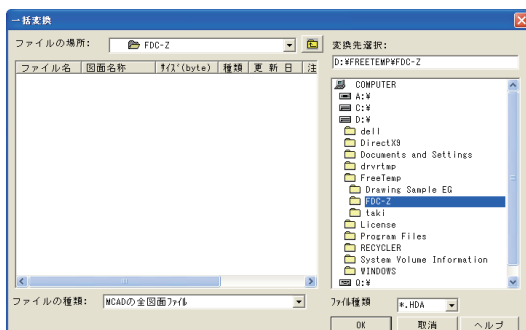
MCAD 入力に機能を追加しました。

MCAD 入力に以下の機能を追加しました。

[ファイル / 外部入力 / MCAD 入力]

1. 一括変換ダイアログ

一括変換のダイアログのデザインが一部変更になりました。

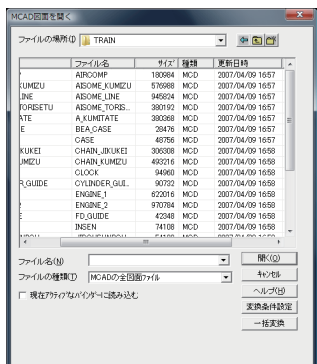


2. 更新日時ソート (VISTA 限定機能)

OS が Windows Vista の場合に限り、更新日時での MCAD ファイルのソートが可能になりました。

ファイル名一覧にある項目「更新日時」にカーソルを合わせ左クリックすると、昇順にファイルの順序が並び替わります。再びクリックすると降順に並び替わります。

ファイル名一覧に「更新日時」が表示されていない場合は、ボックスを左にスライドすることで表示されます。



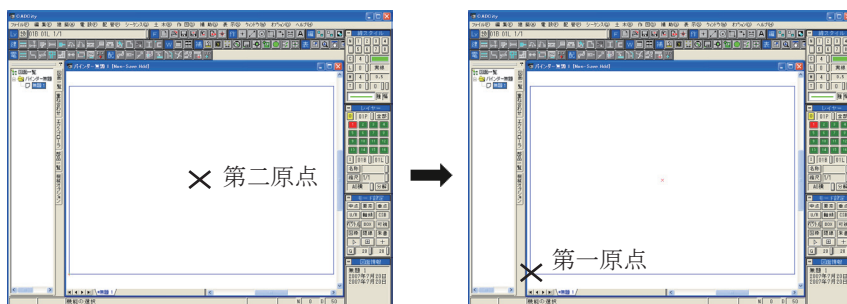
2-11

JW_CAD 入力

変換の原点が第二原点から第一原点になりました。

従来のバージョンでは、JWC 入力の変換の原点は第二原点でしたが、Ver. 11.0 より変換の原点を第一原点にし、JWW と合わせました。

[ファイル / 外部入力 / JW_CAD 入力]



2-12

SXF 出力

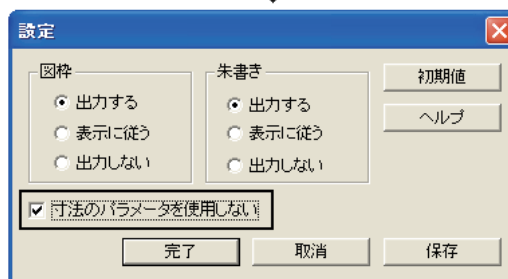
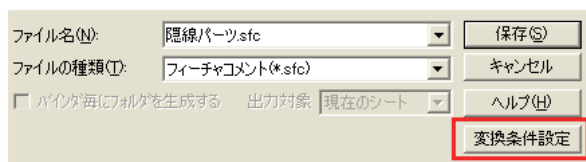
読み込み時の寸法パラメータを使用せず、現在の形状から出力データを作成する設定を追加しました。

読み込み時の寸法パラメータを使用せず、現在の形状から出力データを作成する設定を追加しました。

SXF 入力で読み込み編集した図面データを再度 SXF で出力する際、寸法に狂いが生じたり、変換に失敗する場合があります。そのような場合にこの機能を使用してみてください。

変換条件設定ダイアログから「寸法のパラメータを使用しない」を選択し、チェックをオンにすることで機能が有効になります。

[ファイル / 外部出力 / SXF 出力]



3 - 1

移動、複写

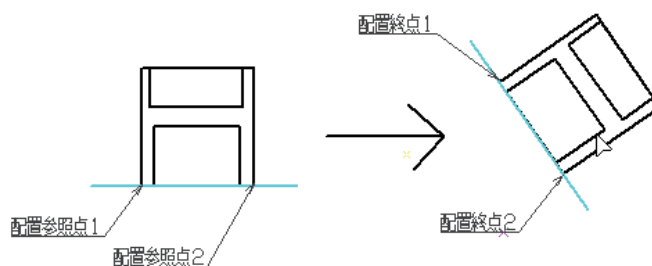
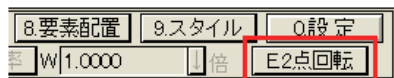
CSB に [2 点回転] を追加しました。

CSB に [2 点回転] を追加しました。

2 点の配置参照点、配置終点を指定し、自由な配置、角度で移動・複写する機能です。

参照する回転中心点、参照する回転点、配置する図形の回転中心点、図形の配置点を順に指定した後、マウス右クリックで確定すると図形が書き込まれます。

[編集 / 複写 / 複写]、[編集 / 移動 / 移動]



3 - 2

切断

連続線を指定して等間隔で切断する [連続] コマンドを CSB に追加しました。

連続線を指定して等間隔で切断する [連続] コマンドを CSB に追加しました。始点、切断したい各要素、終点を左クリックで指定し、右クリックで確定します。[7. 分割数] の入力欄に分割数を指定すると、指定した数値で分割点が作図されます。

[編集 / 変更 / 切断]



3 - 3

テキスト転送

空白と文字列が重なった場合、空白を無視して出力するようになりました。

[編集 / 複写 / テキスト転送]

3 - 4

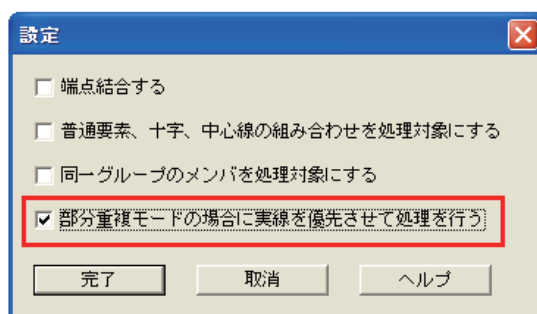
重複線消去

重複線消去に機能を追加しました。

処理速度を前バージョンの約3倍に強化しました。

また、[2. 部重]と[9. 線種]が共にオンのとき、線種の異なる要素を処理の要素にした場合に、実線を優先させ処理を行う設定を[7. 設定]に追加しました。[1. 全重]がオンの場合は優先処理を行いません。

[編集 / 消去 / 重複線消去]



4 - 1

文字

文字コマンドに機能を追加しました。

文字コマンドに以下の機能を追加しました。

[作図 / 文字記入 / 文字]

1. CSB に [文字隠線] コマンドを追加しました。

文字を作図する際に隠線処理をかけることが可能です。文字隠線機能は、文字エリアを隠線処理し文字を見やすくする機能です。

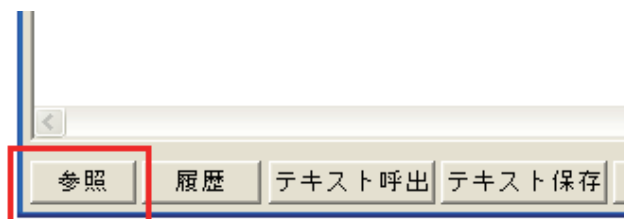
ハッチングの上や、込み入った要素の近辺に文字をおいた場合、文字が見えなくなる場合に効果的です。



2. 文字 BOX に参照ボタンを追加しました。

図面から文字を参照し、文字 BOX に入力することができます。

「参照」ボタンを押すと、文字 BOX が一旦閉じられます。参照したい文字にカーソルを合わせ左クリックすると、参照した文字が文字 BOX に書き加えられます。

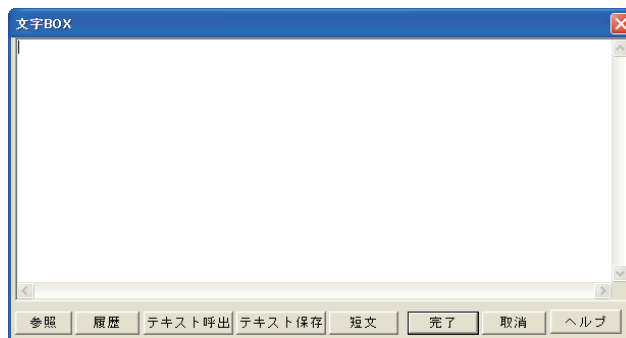
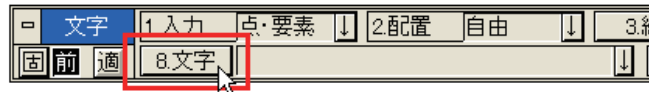


文字ボックスの表示方法

①【1. 入力】の文字 BOX 選択時、作図エリアクリックで文字 BOX が表示されます。



②【1. 入力】で、文字 BOX 以外を選択した場合、【8. 文字】を右クリックで文字 BOX が表示されます。



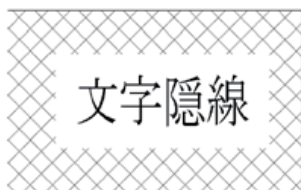
4 - 2

文字隠線

作図された文字列の隠線処理と編集を行うことができる新コマンドです。

隠線化したい文字を左クリックすると、指定した文字に隠線処理がかかります。

[作図 / 文字記入 / 文字隠線]



4 - 3

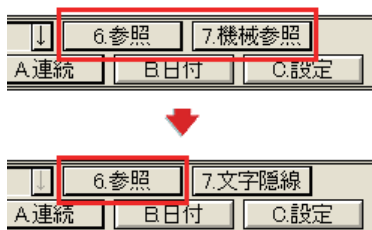
文字、注釈 2

[参照] ボタン、[機械参照] ボタンが一つのボタンに統合されました。

Ver. 11.0 より新たにグループ名称が参照可能になりました。

CSBにあるボタン [参照] がオンの状態で文字、グループ名称にカーソルを合わせ、マウス左クリックで指定すると、要素の属性を参照し入力欄に取り込みます。

[作図 / 文字記入 / 文字]、[作図 / 文字記入 / 注釈 2]



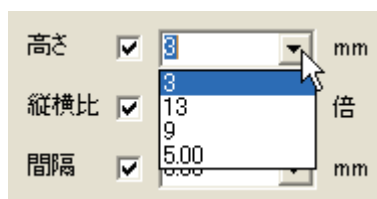
4 - 4

文字、注釈 2、バルーン

文字スタイルの設定で入力した数値の履歴を保持できるようになりました。

文字スタイルの設定は、CSB コマンド [設定] 左クリックで表示される設定ダイアログ内で変更が出来ます。

[作図 / 文字記入 / 文字]、[作図 / 文字記入 / 注釈 2]、[作図 / 文字記入 / バルーン]



4 - 5

Bスプライン補間

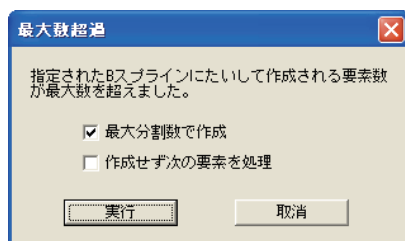
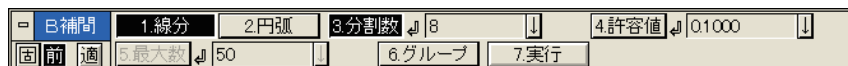
「B スプライン円弧補間」コマンドを今バージョンで拡張し、円弧に加え線分も補間できるようにしました。

「B スプライン円弧補間」コマンドを今バージョンで拡張し、円弧に加え線分も補間できるようにしました。それに伴い、コマンド名が「B スプライン補間」に変わりました。

CSB ボタン [最大数] では一つの B スプラインを補間し作成される要素の最大数を指定できます。

指定できる値は 2 以上 300 以下となり、初期値は 50 になっています。

[作図 / 曲線 / B スプライン補間]



4 - 6

雲形

雲形コマンドに機能を追加しました。

CSB にプロット、円・長方形・楕円モードが追加されました。

[作図 / 定型 / 雲形]

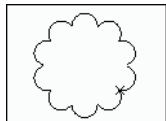
☐	雲形	1.ピッチ	S	100.0000	↓mm	2.プロット	3.自由	4.要素指定	
固前適		5.円弧高	H	100.0000	↓mm	6.参照	7.円	8.長方形	9.楕円

2.プロット

ON の時、縮尺にかかわらず [1. ピッチ] ・ [5. 円弧高] に入力した値で出力できるような作図します。

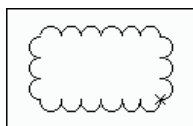
7.円

[4. 要素指定] と共に ON の時、既に作図された円要素を指定すると、その円に沿った雲形を作図する事ができます。また、[4. 要素指定] が OFF の時は、中心点と通過点を指定する事で円に沿った雲形を作図する事ができます。



8.長方形

[4. 要素指定] と共に ON の時、既に作図された長方形要素を指定すると、その長方形に沿った雲形を作図する事ができます。また、[4. 要素指定] が OFF の時は、始点と終点を指定する事で長方形に沿った雲形を作図する事ができます。



9.楕円

[4. 要素指定] と共に ON の時、既に作図された楕円要素を指定すると、その楕円に沿った雲形を作図する事ができます。また、[4. 要素指定] が OFF の時は、中心点と軸端 1、軸端 2 を指定する事で楕円に沿った雲形を作図する事ができます。



5 - 1

参照部品 / 部品編集

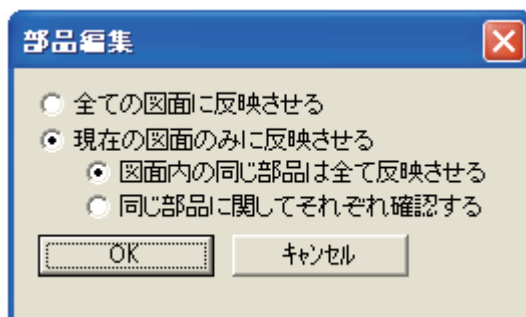
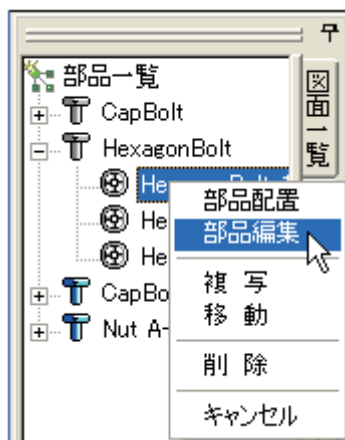
参照部品を使用している図面から、その参照部品を指定して、部品の編集を行い、直接修正ができるようになりました。

参照部品を使用している図面から、その参照部品を指定して、部品の編集を行い、直接修正ができるようになりました。

その際、使用している図面内のみ反映するか、複数配置されている場合個別に修正を指定できます。

ツールビューの部品一覧からも [部品編集コマンド] を起動できます。

[補助 / 参照部品 / 部品編集]



5 - 2

システム設定 / マウスアクション

「表示までの時間」での設定範囲の最小値が 10ms から 1ms に拡張されました。

[補助 / システム設定]

表示までの時間 ミ秒 (1 ~ 1000)

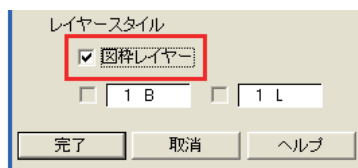
5 - 3

図枠情報設定

レイヤースタイル指定欄に、「図枠レイヤー」を追加しました。

レイヤースタイル指定欄に、「図枠レイヤー」を追加しました。チェックをオンにすると、図枠レイヤーに指定の文字列を取り込みます。

[補助 / 図枠 / 図枠情報設定]

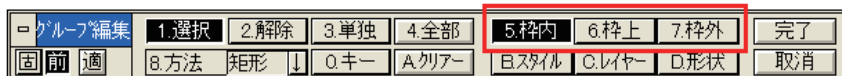


5 - 4

グループ編集

[部分追加][部分解除]にて、表示される枠選択CSBで[枠内][枠上][枠外]を選択できるようになりました。

[補助 / グループ / グループ編集]



5 - 5

距離計測

CSBに[-符号]が追加されました。

距離計測において、始点と終点の距離表示にマイナスの座標値の場合を示す「- (マイナス)」記号が表示されます。

[補助 / 計測 / 距離]



6-1

鉄骨および軽量鉄骨

Ver.11.0より、各幅のユーザー定義データを自由に登録・変更・消去・保持できるようになりました。(既定定義データの編集はできません)

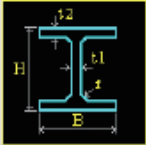
規格一覧表にユーザー定義幅を登録することが出来ます。
(既定定義データは黄色、ユーザー定義データは青色表示)

[建築 / 鉄骨、軽量鉄骨]

H×B	t1	t2	r
400×200	8	13	13
448×199	8	12	13
450×200	9	14	13
498×198	8	14	13
500×200	10	16	13
508×201	11	19	13
598×199	10	15	13
600×200	11	17	13
608×201	12	20	13
250×125	6	9	8

マウス〈右〉でユーザー値登録

形状寸法値設定



H×B: 250×125

t1: 6

t2: 9

r: 8

OK キャンセル

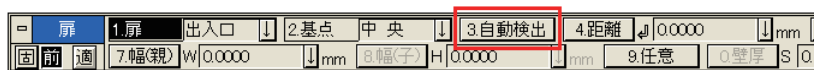
6-2

建具

自動検出の設定が共通化になりました。

「3. 自動検出」ボタンがオンの時は、保存されている枠選択の「B. スタイル」「C. レイヤー」で切断する壁線、しない壁線を自動検出し、実行されます。この時、一度自動検出の処理を実行すると、他の建具コマンドでも同様の条件で自動検出が行えるように設定を共有する事ができます。

[建築 / 建具]



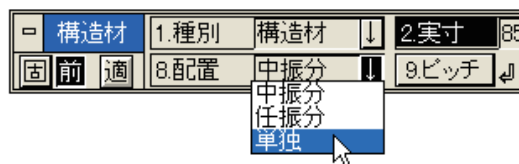
6-3

構造材

単独モードの場合に連続配置が可能になりました。

「8. 配置」ボタンより、「単独」を選択した場合、連続して記号作図が可能になりました。

[建築 / 記号・定型 / 構造材]



6-4

スリーブ

連続モードが追加されました。

「2. 連続」がオンの時、スリーブを連続で作図することができます。

[建築 / 記号・定型 / スリーブ]



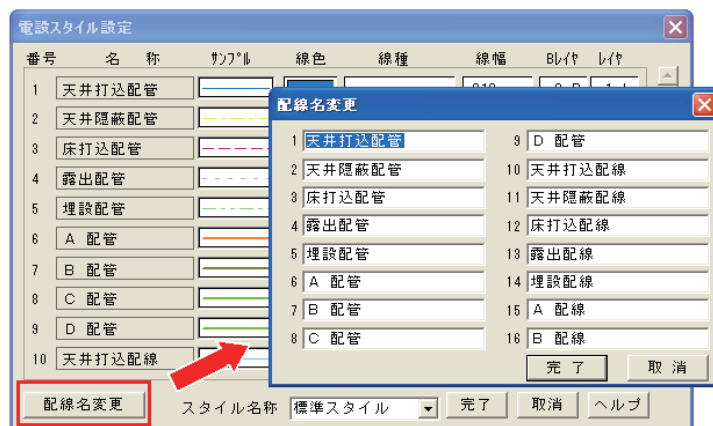
7-1

電設スタイル

配管・配線名が変更可能になりました。

Ver. 11.0 より、配線名称の変更が可能になりました。設定した内容は「渡り配線」、「連続配線」、「省略配線」コマンドに適用されます。

[電設 / 電設スタイル]



7-2

Access 変換 / 起動

Access2003/2007 に対応しました。

[電設 / 簡易集計 / Access 変換、起動]

変換された Access データは、「¥CADCity¥SYSDATA」フォルダの中に、以下のよう
に保存されます。

Access97 配線・配管集計: Hai 属性 .MDB
シンボル集計 : Sym 属性 .MDB ファイル

Access2000・2002・2003・2007 配線・配管集計: Hai 属性 2K .MDB
シンボル集計 : Sym 属性 2K .MDB ファイル

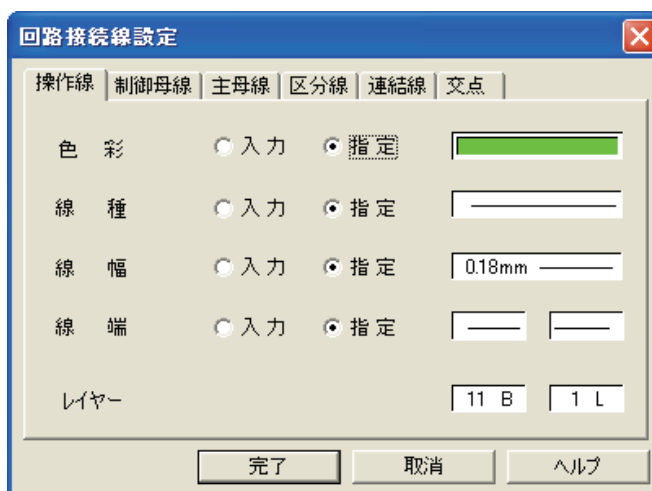
8 - 1

回路接続線

各接続線スタイルをDLBで設定出来るようになりました。

「8. 設定」より、操作線、制御母線、主母線、区分線、連結線、交点のスタイルを指定します。

[シーケンス / 作図 / 回路接続線]



8 - 2

線径注釈

CSBに[参照]ボタンを追加しました。

作図画面上の文字をマウス左クリックで指定することにより、文字入力ボックスに、文字列を取り込むことができます。

[シーケンス / 作図 / 線径注釈]

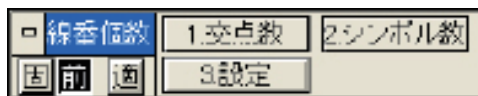


8-3

線番個数

シーケンス図面に作図された各線番の交点数とシンボル数を算出し、図面上に作表、あるいはローカルディスク上に csv 形式で保存することができます。

[シーケンス / 編集 / 線番個数]

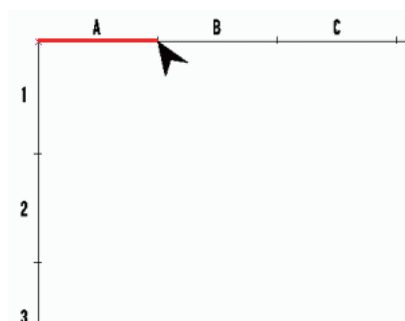


8-4

シート登録

区分点指定時にラバーが表示されるようになりました。

[シーケンス / データ登録 / シート登録]



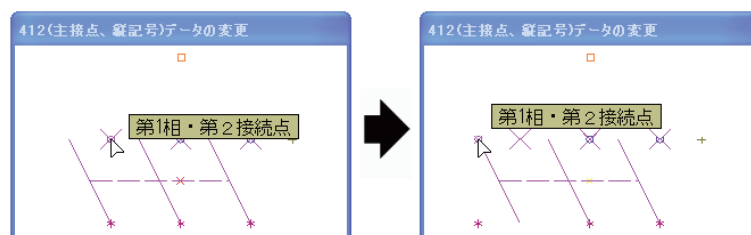
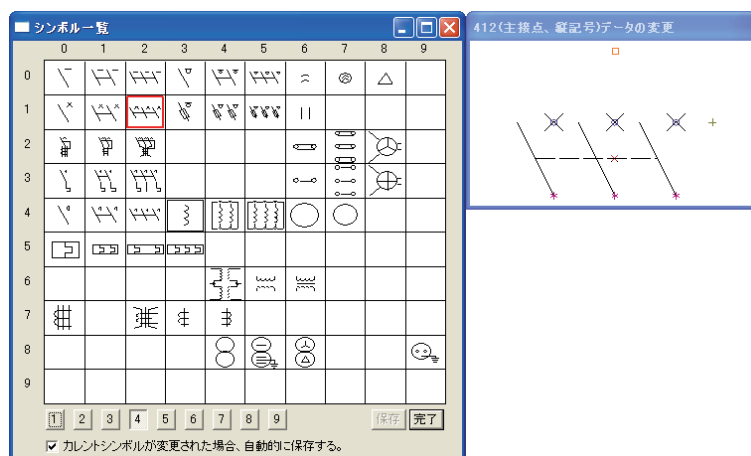
8-5

シンボル情報

シンボル登録された電気回路の電気シンボルのデバイス点や接続点等の情報を、一覧表あるいは作図された図面から取得し、編集することができます。

既に作図されたシンボルまたは一覧表から指定したシンボル情報を、以下のよう
にマウスで指定して変更することが出来ます。

[シーケンス / データ登録 / シンボル情報]



9 - 1

外部データ貼り付け

「外部データ貼付」の図面の表示と印刷に機能を追加しました。

Ver. 10.5 では、「外部データ貼り付け」にて作成された図面データの表示や印刷は、オプションライセンスを持つ環境に限られました。

Ver. 11.0 より外部データ貼り付けオプションのライセンスが無い環境でも、データ貼付コマンドで貼り付けられた図面データの表示・印刷が可能となりました。

[オプション / 外部データ貼付]

10 - 1

照明器具姿図集

データ集の部品フォルダにある照明姿図集に平成19年版を追加しました。

[オプション / 外部データ貼付]

